

寄居町地域おこし協力隊員を紹介します！

① 空き家・空き店舗活用支援、移住希望者・創業希望者支援活動に取り組む隊員

大田 幸子 隊員（鹿児島県阿久根市出身）

私はもともと古民家リノベーションに興味を持っており、地方に移住したいと考えていました。1年ほど前、移住促進サイトで寄居町を知り、イベントやワークショップへの参加を通して、寄居の方々と交流させていただきました。その中で、寄居の自然や食の豊かさに惹かれ、次第にこの町で活動がしたいと思うようになり、地域おこし協力隊に志願しました。まちづくりとしての空き家・空

き店舗活用や創業支援は初めての経験ですが、不動産仲介や鑑定の実験を地域おこし協力隊の活動に生かしていきたいと思っています。「移住や創業を考えている方に選ばれる町になってほしい」、「空き家・空き店舗支援活動を通じて町で活躍する人を増やしたい」、「町の課題をチャンスに変えていきたい」、そのための仕掛けづくり、基盤づくりに挑戦していきたいと思っています。



② 魅力向上・集客促進活動に取り組む隊員

後藤 美乃里 隊員（岐阜県岐阜市出身）

私は豊かな自然に惹かれて寄居町に移住してきました。地域おこし協力隊の活動では、町の自然が持つ素朴な魅力や人々の営みを生かし、イベントや地元特産品、町民が交流できる場をつくっていきたくて考えています。寄居の皆さんにとっての「当たり前」は、外から見ると、とても魅力的であり、価値の高いものです。それにほんのわずかなアレンジを加えたり、別々のもの同士をつ

なげたり、情報を集約・整理したりすることで、ハッと心が惹きつけられる新鮮な魅力が生まれます。私は6年間、さまざまな商品を扱う通販サイトの運営会社に勤め「モノの見せ方」を日々研究し、魅力の高め方や表現方法を追求してきました。その経験を生かし、町の魅力向上に貢献できればと思っています。町が輝きを放つための一助となるべく頑張ります！

「地域おこし協力隊」とは？

「都市を離れて地方で生活したい」、「地域社会に貢献したい」、「人とのつながりを大切にしたい」、「自然と共存したい」、「自分の手で作物を育ててみたい」……。

今、都市に住む人たちがさまざまな理由で豊かな自然環境や歴史、文化などに恵まれた「地方」に注目しています。

「地域おこし協力隊」とは、人口減少等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的としたものです。

寄居町地域おこし協力隊は「埼玉県版地域おこし協力隊」制度を活用し、埼玉県版では県内初の取り組みとなります。

寄居町地域おこし協力隊、始動。

町では、少子高齢化や人口減少、若い世代の都市部への流出等の問題に直面しており、新たな町の担い手を増やすことが、課題となっています。このため、町外から人材を誘致し、新たな発想・能力を取り入れ、地域力の維持・強化を図っていく必要があります。

今回、寄居町の地域活動に関心のある方を都市部から募集し、熱意のある2人を「寄居町地域おこし協力隊員」として迎えました。

☎商工観光課（☎581・2121内線452）



寄居町地域おこし協力隊の活動

地域おこし協力隊は、町の活性化を図るため、次の活動に取り組んでいきます。

① 空き家・空き店舗活用支援、移住希望者・創業希望者支援活動

中心市街地の空き家・空き店舗情報の集約、発信

移住や創業を考えている方の希望に沿う空き家、空き店舗を紹介し、マッチングする活動

移住希望者、創業希望者への支援体制づくり

移住希望者、創業希望者が利用できる助成制度等を総合的に紹介する活動

寄居町版ローカルメディア(仮称)の運用

町で暮らす魅力を情報発信し、移住希望者、創業希望者の増加を促進する活動

② 魅力向上・集客促進活動

町で暮らす方、訪れる方が楽しめるイベントの企画・実施

町の観光資源等を生かしたイベントの企画・実施、継続可能な体制づくりなどの活動

町の魅力を体験できるコンテンツづくり

魅力体験プログラムなどを企画・実施し、体験を通して町の魅力を発信する活動